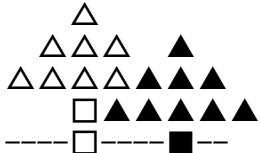


2003/10/31



北海道立林業試験場メールマガジン

『北の森の達人』

Vol. 04 第4号

□■□読者の皆様へ□■□

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

□■□目次□■□

■刊行物ダイジェスト	光珠内季報 No. 132
■ホームページの紹介	森林技術フォーラムの報告
■森林Q & Aで解決!	広葉樹の保育特集
■今日の達人のささやき	企画指導部長 浅井達弘

■刊行物ダイジェスト . . . 光珠内季報 No. 132 (2003. 10発行)

◇林業試験場が平成15年度に取り組む試験研究のあらまし

◇道北地方におけるダケカンバ二次林の密度管理方法 (森林環境部 真坂一彦)
道北地方のダケカンバ二次林(2等地)に設定した間伐試験地の試験結果から、ダケカンバ二次林の密度管理は、20年生時にhaあたり1500本、30年生時にhaあたり1000本にすることが適当であることが示唆されました。

◇離島の水環境と森づくり -天売島と焼尻島- (森林環境部 佐藤弘和)
過去に深刻な水不足が生じ、水源かん養林の整備が進められた天売島・焼尻島では、夏期の渇水流量が10年経って増加する傾向にありました。今後は、蒸発散量と樹冠による雪の遮断量を減らすために、常緑樹の間伐などを実施するとともに、最終的に落葉樹への転換を図ることが有効です。

<-刊行物詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kiho13.htm>

■ホームページの紹介 . . . 森林技術フォーラムの報告

釧路根室圏域における森林・みどりづくり技術の向上と木材利用の促進を図り、地域の環境保全と循環型社会形成に資するため、林業試験場と林産試験場が連携して取り組む森林技術フォーラム(平成15年9月16日、釧路市市民文化会館で開催)が、盛会のうちに終了しました。
フォーラムの内容は、次のとおりです。

◇成果報告会
林業試験場森林環境部の長坂科長から「多様な立地に応じた広葉樹林の造成技術」と題して、立地に応じた樹種の生育の違いや選定、河畔林や海岸林造成における技術上の留意点などについて、研究成果が報告されました。

引き続き、林産試験場利用部科学加工科の本間科長から、「中小径間伐材などの未利用材利用技術」と題して、木材を炭化することにより、塩基性ガスの吸着、イオン吸着といった機能が付加され、木材の用途が拡大できるという研究成果が報告されました。

◇技術交流会
成果報告会の後、二つの会場に分かれ、それぞれの成果報告に基づいて意見交換が行われました。

森林づくり部門では、釧路管内の広葉樹造林地の事例を紹介していただきながら、植栽や育成段階で配慮すべき事項や、具体的な方法について意見交換を行いました。

木材利用部門では、成果報告会の炭化物について補足説明やそのほかの成果として三層管柱についての紹介をし、それに対し、実際の山林所有者へ還元できるような成果をださなければならぬなどのご意見をいただきました。

※このフォーラムは、「地域に根ざした研究・普及サイクルのシステムづくり」の一環として開催したものです。

<-森林技術フォーラムの報告詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/news/forum/ff030916report.htm>

■森林Q & Aで解決！ . . . 広葉樹の保育特集

【Q 1】広葉樹萌芽更新のための台切りはいつ実施するとよいか？

【A 1】一般に、生育期間中の伐採は、抜根中の養分量が少ないために株の生残率が低下する傾向にあります。したがって、根や幹に貯蔵養分が多い生育休止期間中に伐採した方が望ましいでしょう。

【Q 2】かき起し後に発生したカンバ類若齢林の除伐方法を知りたい。

【A 2】まだ、定番の対処法は確立されていません。若いときに強度に間伐する方がよいという考え方と、しばらく高密度で成長させてから除伐する方がよいという考え方があります。若齢時に本数で90%を除伐した実験例がありますが、その後の成長は順調なようです。

【Q 3】広葉樹を育てる場合、枝下高をどのように考えればよいか？

【A 3】広葉樹の枝打ちはほとんど行われていませんので、広葉樹の枝下高は、林分の密度管理を考えると、考慮されなくてはなりません。一般に密度を高く保つと枝下高も高くなり、間伐をして密度を低くすると枝野枯れ上がりは進まなくなります。この関係は樹種によって相違があります。さらに、ナラ類は間伐後に後生枝が発生することがあるので注意が必要です。

【Q 4】広葉樹（ミズナラ、ハンノキなど）の秋植えは可能だろうか？ 活着率などのデータもあれば教えてほしい。

【A 4】一般的には春植えが安全です。秋植えも可能ですが、かならず苗木の落葉後に植栽することが重要です。また、植栽当年の冬は植栽木の根系が発達していないため、道東地方などの雪の少ない地方では凍上による枯損の恐れがありますので、秋植えは極力避けたほうがよいでしょう。多雪地でも雪圧によって傾斜や倒伏の危険があり、5cm程度深植えすることが推奨されています。秋植えの活着率に関しては、足寄町の九州大学演習林でミズナラ秋植えの植栽時期別試験例が報告されています。その試験によると、10月以降に植栽したミズナラの活着率は88%以上でした（今田 1976）。道東地方での秋植えでもこのように高い活着率を示すことがありますが、やはり気象条件次第ではかなりのリスクがあることに留意してください。

【Q 5】ミズナラの造林をしているが、活着が悪かったり幹が通直に育たなかったりで困っている。ミズナラ人工林の造成に関するマニュアルがあれば教えてほしい。

【A 5】いわゆるマニュアルではありませんが、「広葉樹育成ガイドーミズナラ林の造成技術ー」（北海道立林業試験場監修、北海道林業改良普及協会発行 1998）が参考になると思います。この本は、ミズナラ林を造成する上で重要な生態的特性やその育苗・造林技術、さらに病虫獣害や気象害などに対する対策について、当林業試験場の研究員がこれまでの研究成果を中心にとりまとめて執筆したものです。

<-森林Q & A 詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/index.htm>

■今日の達人のささやき

企画指導部の浅井です。当場では、20~30年前から造林や防災林、緑化樹等の現場からのニーズに応えるために各種広葉樹の生物季節（開葉や開花、結実、紅葉、落葉などの起日）や種子の発芽特性の把握、苗木生産技術の開発などに取り組んできました。林分密度管理などの保育にまで研究が進んでいる樹種には、カンバ類やナラ類、イヌエンジュ、アオダモなどがあります。今後も対象樹種を増やしていく積りです。どうぞご活用下さい。

////////////////////////////////////

■発行・編集

北海道立林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ担当

企画指導部森林情報室情報管理科
メールマガジン専用電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp

■記事の取り扱い

北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。

////////////////////////////////////